

令和元年度 学校自己評価システムシート (埼玉平成中学校)

目指す学校像	第一希望の進路実現のために必要な学力や知識を身につけさせるとともに、実践をとおして豊かな人間性を磨き、Society5.0の時代を迎える厳しい社会の中でたくましく生き抜くために必要な資質や能力を身につけさせる学校づくりを目指す。
--------	--

重点目標	AIの時代だからこそ必要とされる「人間力」を育てる 1 科学的思考力の育成 2 英語力を鍛える教育の徹底・英検目標級への全員合格 3 コミュニケーション能力の強化・日本語検定目標級への全員合格 4 徹底した論理的思考力の育成 5 第一希望の進路実現
------	---

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	4名

学校自己評価					令和元年度評価			学校関係者評価		
年度目標					中間 (9月5日現在)	年度末 (3月14日現在)		実施日令和2年3月 日		
番号	重点目標 (評価項目)	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の進捗状況	達成度	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	科学的思考力の育成	<ul style="list-style-type: none"> AIの時代に立ち向かっていくための科学的な思考力が十分に身につけていない。 実体験の機会が少ない。 我が国の最先端の研究やそれに携わる研究者に触れる機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉大学STEM教育センターとの連携によりSTEM教育を導入することにより、令和の時代に求められる力を身につけさせるとともに教科横断的な論理力と科学的思考力を育成する。 秩父大滝でのサイエンスフィールドワークにて森林散策・天体観察などを通して自然に触れあひながら科学的な知識を身につけさせる。 最先端の研究機関を訪問することにより、第一線の専門的な分野に触れさせ、視野を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> STEM教育の成果 研究発表会等での発表の成果 森林散策での植物観察の成果 天体観察の成果 鍾乳洞や博物館見学の成果 研究機関訪問の成果 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に4回計8時間授業を行い、STEM用キットを使用して扇風機や車のプログラミングを実践した。 天体観察では、講師の先生から天体望遠鏡の組み立て方や調整方法を学んだ。 橋立鍾乳洞を訪問し、全国でも珍しい縦長の鍾乳洞内部を見学し、自然が生み出した地形に感動した。 埼玉県立自然の博物館を訪問し、秩父地域に太古に生息していた生物について学び、帰校後、壁新聞にまとめた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間15回計30時間の授業を行い、STEM用のキットを使用しながら、音や光に反応して動く扇風機や車のプログラミングを実践した。多くの生徒がSTEM教育に興味・関心を持つようになった。 森林散策では散策中に見つけた植物について学んだ他に、自然林と人工林の違いや秩父大滝地区に生息する動物の生活痕について学び、パワーポイントにまとめて文化祭時に一般客向けに発表した。 中学1年生が秋に日本科学未来館を訪問し、展示物を見て学習し、「これからの社会に科学の力がどのように生かされるか」についてパワーポイントにまとめて、発表した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度もSTEM教育を継続し、さらに教科横断的な教育の実践が課題である。 約20年間続けてきた蓼科高原での実習から場所を秩父に変えた初めての实習だったので、今年度のもを基盤に、事前学習、実習、事後学習の体系的な流れを確立していく。 中2生のサイエンスバイオニアコースの生徒を対象とした施設見学会を充実させていく。 	「AIの時代」にどのように向き合うのかをもっと明確にするべきである。 STEM教育を通じて論理的な思考力がしっかりと生徒に身につけていることを対外的にもっとアピールしていくべきである。 校外で学習してきたことを帰校後、復習させ、プレゼンテーション形式の発表ができています。
2	英語力を鍛える教育の徹底・英検目標級への全員合格	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを英語で表現する力が求められる時代に対応したスピーキングとライティングの力が十分に身につけていない。 海外語学研修旅行で現地の人々との英語での対話の機会を増やすことが課題である。 英検で各学年での目標級を全員が合格できるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> English Station (英会話サロン) で各種検定でのスピーキング対策を取り入れるなど内容を工夫する。 中学2・3年生のGTECにもスピーキングを加えた4技能テストを導入する。 英検やGTECでのライティングの対策を授業内で行う。 日本語の文章をしっかりと書けるようにする。 少人数ごとにホストファミリー(ファーム)宅に滞在することにより、一人ひとりの生徒が英語を話す機会を増やす。 学年縦断型の英検対策授業をさらに充実させ、それぞれの生徒の目標級合格を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> GTEC 4技能テストの結果 英検やGTECのライティング部門の得点結果 日常会話がスムーズに話せるようになったかどうかで判断 英検の合格者数の結果 	<ul style="list-style-type: none"> English Stationでの英検2次対策練習を徹底して実践した結果、第1回の2次試験に臨んだ生徒のほとんどが合格した。 6月に高3が実施したGTECのライティングで昨年の同時期よりも平均で82点スコアがアップした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> English Stationでの英検2次対策練習を2学期、3学期も継続して実践した結果、2次試験に臨んだ生徒のほとんどが合格した。 12月に実施したGTECのライティングで高2は14点、高1は82点平均でスコアがアップした。 2人1組または3人1組で2泊3日ファームの家庭に滞在し、これまでのプログラムよりもはるかに英語を話す機会に恵まれた。ホストファミリーととても有意義な時間を過ごすことができた。 中等部3年生 3級取得率 H30 48% ⇒ R1 75% 高等部3年生 準2級取得率 H30 54.5% ⇒ R1 47.1% *中1生(帰国生)で準1級の合格者が1名。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 英検2次対策練習でのEnglish Stationの利用は素晴らしい成果をあげた。 平常時の放課後の利用を活発にしていきたい。 自分自身の考えを英語で表現できるように授業で英語を書く機会を増やし、ライティング能力を向上させていく。 次年度はホームステイをしながら現地校の教育プログラムに参加することを予定している。さらに英語を話す機会が増えるよう改善していく。 	英検2次試験対策としてのEnglish Stationの活用が成果に結びついているようである。 海外語学研修旅行で、個人宅のファームステイにしたことにより、一人ひとりの生徒が英語を話す機会が増えたことは素晴らしいことである。 母数が少ないので、検定の合格実績を表現するのが難しい。
3	コミュニケーション力の強化・日本語検定全員受験	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現する「言語力」をしっかりと身につけることが課題である。 人の話を聴き、人前で自分の考えを適切に伝える力がまだ十分に身につけていない。 日本語検定において全生徒の合格に向けての対策指導の時間を確保することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ノルディンスコラ手帳の活用をさらに徹底し、日記の習慣を定着させる。 諸行事や講演会に關しての感想文指導を強化していく。 グループ学習を取り入れた授業の実践回数をさらに増やし、主体的に学ぼうぶ力を育成する。 授業の中で対策のための時間を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ノルディンスコラ手帳の記録 諸行事での感想文の成果 講演会の成果 「主体的・対話的で深い学び」の実践 日本語検定の結果 	<ul style="list-style-type: none"> 手帳活用の指導がしっかりとできていたことから、取材を受けるほどであった。 講演会や行事を体験した直後に感想を書かせ、自分が受けた印象を表現する力を身につけた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ノルディンスコラ手帳を利用して日記をつけることを習慣化したことで文章を書く能力を向上させることができた。 道徳の授業等で教員が協力し合いながら、「主体的・対話的で深い学び」を頻繁に実践することができた。 中等部3年生 4級取得率 H30 78.3% ⇒ R1 87.5% 高等部3年生 3級取得率 H30 72.7% ⇒ R1 76.5% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎日欠かさず日記をつける習慣が身につけられるよう指導していく。 日記欄に自分の考えを書けるように指導を継続していく。 次年度も教員が協力し合いながら道徳の授業等で実践していきたい。 来年度もそれぞれの生徒が目標とする級に合格できるように指導を継続していく。 	ノルディンスコラ手帳のホームページに本校の取組事例が取りあげられているようであるが、会社のホームページとリンクできると良い。
4	徹底した論理的思考力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のプレゼンテーション能力を一層向上させることが課題である。 将来の大局的な視点に立った経営的な手法が十分に身につけていない。 教科横断的な思考力が十分に身につけていない。 外部の専門家による物の見方に触れる機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会の準備を6月からスタートさせ、指導する。 聴衆の前で発表できる技術力と組み立て方を育成する。 経営シミュレーションゲームのCAPS、MESEへの取り組みを通して利益を出すための論理的な思考を鍛える。 STEM教育を通した論理的思考力育成。(再掲) 朝日学生新聞社の相談役(脇阪様)の特別授業を受けて、今日的課題をどう捉えるか考えさせる。 川越igoまち倶楽部の協力による囲碁教室を通して俯瞰的なもの見かたを養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会におけるプレゼンテーション CAPS・MESEの取組みの結果 STEM教育の成果 大局的なもの見かたの定着度 俯瞰的で、先を読んだもの見かたの定着度 	<ul style="list-style-type: none"> 6月からスタートし夏季休業前にテーマを決め、休業中に多くの本を読むことができた。 1学期末に中学生全学年がCAPS、高校生が1・2年生がMESEを実施し、論理的な思考を鍛えた。 中1生が「高齢者ドライバーによる交通事故」の特別授業を受け、免許返上以外に交通事故を減少させる方策を考えた。 7月実施の囲碁教室では囲碁の歴史やルールについて学習し、関心を持つようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は8:45～15:30までの全日での実施となり、中1～高2までの生徒が研究内容と自身の見解を論理的にまとめ、聴衆の前で発表することができた。 2学期末に中学生全学年がCAPS、高校1年生がMESEを実施し、経営シミュレーションゲームを通して、論理的思考力を鍛えながら、利益をいかに出していかかという経営感覚を身につけた。 STEM教育では理科だけでなく数学的な知識も活かしながらプログラミングに取り組んだ。 高3生が「人口減と未来 ロジカル・シンキングの時代」の特別授業を受け、AIが台頭してくるこれからの時代に、論理的な思考が大切になってくることについて学習した。 12月実施の囲碁教室ではより実践的な取り組みができ、先を読む俯瞰的な考えができるようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は平日丸一日かけての行事だったが、とても良い内容なので、もっと多くの保護者にも見ていただくために来年度の実施方法や曜日を検討していく。 学年の枠を超えたチーム編成をすることにより、たくさんの生徒と意見交換ができるように工夫していく。 距離や時間的な要素も取り入れ、より論理的なプログラミングに挑戦できるように指導する。 来年度も講演の機会を設け、これからの時代について深く考えさせる。 	研究発表会では生徒達が独創的で3次元的な思考ができ始めている様である。生徒達が自分の言いたいことをしっかりと伝える機会になっているようだ。 外部講師との関わりを通して、埼玉平成の生徒の成長をアピールしていけると良い。
5	第一希望の進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 自分の適性や力の把握が充分にできていない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織的、体系的なキャリア教育の実践 7月に社会人の卒業生を招いてキャリア講演会を実施する。 11月にJICAや読売新聞社を訪問する体験学習を通して、自分の将来を見つめさせる。 学習支援センターの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識の定着 進路実績 	<ul style="list-style-type: none"> 大学でキャリア教育を指導している卒業生と公務員をしている卒業生を招いて中1・2年生を対象に講演会を実施し、将来の職業について考えさせた。 6月からスタートした学習支援センターを放課後利用し、多くの生徒が自学に励んでいる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 大学でキャリア教育を指導している卒業生に2月にも中3・高1・高2の生徒を対象に講演会を実施し、大学生活や社会人生活で大切な力についての話を聞き、将来について考える機会となった。 11月に中2生がJICAを訪問し、国際協力について学んだ。 中3生が読売新聞東京本社を訪問し、新聞記事のまとめ方を学んだ。 今年度は一般受験にチャレンジした生徒が例年より多く、たくさんの大学合格を出すことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 講演会や企業見学会をおして自己の将来について考えさせる機会を増やしていく。 より多くの生徒が学習支援センターを利用するよう働きかけていく。 一般受験で大学にチャレンジする生徒を増やし、その指導を充実していく。 	社会人講師の講演を聞いた後や企業見学会をした後の生徒の感想をもとに、それぞれの行事を評価していくと良い。

*STEM教育とは、アメリカのオバマ前大統領が推進した教育システムで、これからの時代を担う子どもたちに必要な資質を統合的に身に付けさせていくという先進的な取組です。「STEM」とはScience(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)のそれぞれの単語の頭文字をとったものです。この教育は創造、変革、問題解決に必要な力を育てるもので、単なる理系科目教育やプログラミング教育ではなく、教科横断的に取り組み、社会や創造性と密接に結びついた生徒の主体性を育む総合的な教育システムです。